



**Q** 友だちと数人でつるみ、悪いことをしているのではないかと気になります。

**A** ギャングエイジの始まりで、仲間内のルールを優先するようになります。

小学校の中学年から高学年になると、子供たちは集団をつくって遊ぶようになります。こうしたギャング（仲間）集団ができる時期がギャングエイジです。

この時期は、関心が友だちに向かい、友だちとの関わりの中で社会性が育まれます。つまり①仲間意識が強くなり、②中心になる子供が現れ、それぞれが役割分担を果たすことで自信をもち、③集団の中でどのような行動をとれば適応できるか考え、④集団内で約束事や計画を作って実行するようになります。

### ● 大人へのワンステップ

自分たちの結びつきが強い分、それ以外には閉鎖的になります。親に対してもそうで、干渉すると反発したりするので「中間反

「時間」「遊ぶ」空間」の3つの「間」が少なく、しかもゲームや携帯端末の普及で、集団で遊ぶ機会が少なくなりました。これが、子供たちの人と交わる力を弱くしているとして、問題になっています。

大人になるための大切な成長過程です。日頃からだれと遊んでいるか、どこで何をしているか、家庭でのさりげない会話から様子を把握しておきましょう。そして、親同士も気軽に連絡を取り合えるような関係を作っておきたいものです。

抗期」とも呼ばれるのです。でも自我の芽生えですから、親はゆったり構えてください。こうした5〜6人の小さな子供集団で、仲間や集団への忠誠心、責任感、義務感などを学ぶことが、将来の社会性につながります。

ところが近年では、「仲間」

**Q** 小5の娘は悪くなくても友だちに謝るなど、気の遣いすぎが心配です。

**A** 娘さんの優しさを長所として認め、伸ばしてあげましょう。

子供さんは感受性が豊かで、周囲への気配りができるのでしょう。相手を気遣うことは、人に好かれる資質なのです。長所として理解し、認めてあげたいものです。

まずいのは、「そんなに気が弱くてどうするの。しっかりなさい」などと、励ましたつもりで、かえって自信を失わせてしまう言葉です。

謝るのは自分に非があるから



という合理的な考えから、「これから先、損をするのでは」と親御さんは心配するかもしれませんが、でも考えようによっては、関係を回復する術を心得ているのですから、大したものですよ。「あなたにはいいところがあるよ」「そういう優しいところが大好きだよ」と、共感してあげたらどうでしょうか。

### ●個性を長所にするのは親

これから先、いろいろな経験を積み重ねていく中で、いくらでも成長できます。奥手の子は、

成長はゆっくりかもしれませんが、地域の行事に親子で顔を出して多様な年齢層の人と触れ合ったり、スポーツクラブで違う学校の子と友だちになったり、今の子供たちは人間関係が限られていますので、広げてあげるといいでしょう。

子供の個性を長所として引き出せるのは親です。不足なところばかりを指摘されると、萎縮してしまいます。いいところを見てあげると、足りないところは自然と補われていくものです。

## Q 学童が終わった小4の子供がスマートフォンをほしがります。

### A 与える前に「わが家の掟」を作りましょう。

学童が終わると、スマートフォンを購入する家庭が増えますが、スマホに限らず、子供の個室の扱いや門限など、「わが家の掟（ルール）」のようなものを日頃から夫婦で話題にしておく

いいでしょう。

スマホの場合は、何の目的で与えるかだけでなく、話し合えるところまで子供が成長しているか、決めた約束は守れるか、が買い与える目安と考え

### ●ワンポイント・アドバイス

小学校3・4年の子にとって友だちからの承認は大切です。親も子供の友だちを大切にしましょう。

ますが、お宅ではどう考えるでしょうか。

それぞれの家庭で決め事は違っていいと思います。第一子が直面することは親も初めての経験になりますから、面食らうことばかりでしょう。親も子供と一緒に成長しているのですから、試行錯誤は当然です。

第一子のとき「わが家の掟」ができていないと「以下ならえ」で初めが肝心です。後は子供の成長に合わせて、変えていけばいいでしょう。「みんなの家ではこうだよ」と子供に反論されたとき、親がどう説明するかです。日頃から親子の風通しを良くしておくことも大切ですね。